■ テーマ展「数寄と清風 - 井伊直亮の茶の湯と煎茶 - 」 作品リスト ■

番号	名称	作者	数量	制作年代	所蔵
参考	井伊直亮画像(写真パネル)	賛:仏洲仙英筆 画:佐竹永海筆	1幅	江戸時代	清涼寺
【　直亮と茶の湯　】					
1	唐物鶴首茶入		1口	中国・宋時代	当館(井伊家伝来資料)
2	唐物森本文琳茶入		1口	中国・宋時代	当館(井伊家伝来資料)
3	古瀬戸弦付茶入		1口	桃山時代	当館(井伊家伝来資料)
4	銅鍍金花鳥獣文平水指		1口	中国・清時代	当館(井伊家伝来資料)
5	黄銅七宝花唐草文鎖		1本	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
6	六角菜籠炭斗		1口	中国・清時代	当館(井伊家伝来資料)
7	羽箒		3本	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
8	台子皆具	名越弥五郎作	一式	天保15年(1844)	当館(井伊家伝来資料)
参考	叢梨地橘紋散蒔絵台子		1基	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
参考	甑口羽釜・雁皮鐶付風炉		一式	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
9	湖東焼 赤絵金彩羅漢雲鶴文茶碗	幸斎絵付	1口	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
10	湖東焼　赤絵金彩捻文向付	弥平絵付	1口	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
11	湖東焼　赤絵金彩捻文向付	弥平絵付	1口	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
12	叢梨地山水千鳥蒔絵茶箱		1合	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
13	赤楽燭台	楽了入作	1基	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
14	桜花透文釣灯籠		1灯	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
15	「利休流茶湯書」	井伊直亮写	3冊	元禄3年(1690)成立 江戸時代写	当館(井伊家伝来典籍)
16	「千家伝授之書」	井伊直亮写	1冊	文政2年(1819)写	当館(井伊家伝来典籍)
17	「遠州流秘書」		1冊	文政元年(1818)写	当館(井伊家伝来典籍)
18	「怡渓註三百箇条」	井伊直亮写	3冊	万治3年(1660)成立 天保14年(1843)写	当館(井伊家伝来典籍)
19	「玩貨名物記」	井伊直亮写	1冊	万治元年(1658)序文 江戸時代写	当館(井伊家伝来典籍)
20	「名物記」		11冊	江戸時代写	当館(井伊家伝来典籍)
21	浦嶋図	元信印 近衛稙家賛	1幅	室町時代	当館(井伊家伝来資料)
【　直亮と煎茶　】					
参考	煎茶室 楽々亭(写真パネル)				
22	染付唐人物花鳥捻文煎茶碗		5口	中国・清時代	当館(井伊家伝来資料)
23	湖東焼　染付唐人物花鳥捻文煎茶碗		1口	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
24	湖東焼　赤絵金彩唐人物図煎茶碗	鳴鳳絵付	5口	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
25	紫泥六角水注		1口	中国・清時代	当館(井伊家伝来資料)
26	青花花卉文百合口水注		1口	中国・明時代	当館(井伊家伝来資料)
27	唐銅饕餮文鼎		1口	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
28	菟組釜敷		1枚	中国・清代	当館(井伊家伝来資料)
29	花透釜敷		2枚	中国・清代	当館(井伊家伝来資料)
30	蝋石製桃形肉池		1合	中国・清代	当館(井伊家伝来資料)
31	白島石長掛算		6本	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
32	湖東焼　赤絵金彩丸文散硯屏	鳴鳳絵付	1基	江戸時代	個人
33	青磁陽刻梅竜文透彫硯		1面	中国・清時代	当館(井伊家伝来資料)
34	石製長方硯(羅文硯)		1面	中国・清時代	当館(井伊家伝来資料)
35	唐木青貝花鳥文蒔絵懸硯箱		1合	中国・清時代	当館(井伊家伝来資料)
36	官女遊図		6曲1隻	中国・清時代	当館(井伊家伝来資料)
【　道具への思い　茶室への思い　】					
37	焼締波兎陽刻八角陶硯　銘竹生島 箱蓋・極札とも		1面	江戸時代	当館(井伊家伝来資料)
38	宮王肩衝茶入　附属品書付	井伊直亮筆	1枚	江戸時代	当館(彦根藩井伊家文書)
39	井伊直亮書状　鈴木林碩宛	井伊直亮筆	1通	江戸時代	当館(彦根藩井伊家文書)

写　真　解　説

＊番号は作品リストの番号と一致します。

２　唐物森本文琳茶入　　１口

口径2.9cm　胴最大6.3cm　高7.0cm

中国・宋時代

当館蔵（井伊家伝来資料）

文琳は林檎の異名で、その形に似た茶入を文琳茶入といいます。唐物茶入の中で文琳は、茄子とともにその最上位といわれ、名物も多くあります。本作は、かつて森本某所蔵であったことからの命名と推測されます。

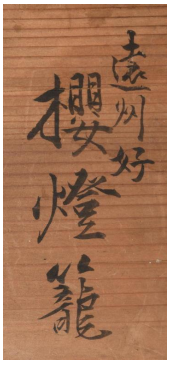
本茶入は、直亮が、リストの１・３の茶入とともに小堀家代々所持の品として「長浜の者（町人）」から購入したことが、直亮自筆の道具帳から判明します。入手は天保13年（1842）のことで、３点とも極上々位という最高の位付けをしています。

14　桜花透文釣灯籠　　１灯

胴最大22.1cm　高42.5cm

江戸時代

当館蔵（井伊家伝来資料）



（箱書）

露地や庇などに吊す鉄製の釣灯籠。外側は、亀甲繋と桜花の文様を透かし彫りで規則的に配し、内側は和紙を貼りめぐらせています。江戸時代前期の茶人、小堀遠州（1579-1647）の好みのものと伝えられ、遠州の特色と言われる「綺麗さび」を具現化したような、優美で洗練された作品です。この燈籠を納める箱の蓋に、直亮自身が「遠州好／桜灯籠」と記しています。

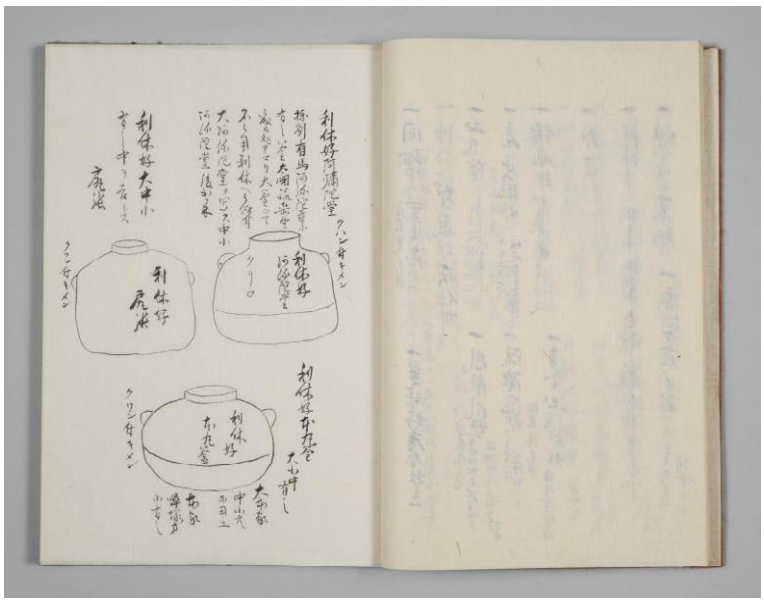
16　「千家伝授之書」　　１冊

井伊直亮写

縦23.7cm　横17.3cm

文政2年(1819)10月写

当館蔵（井伊家伝来典籍）



「千家伝授之次第」と題し、表千家７代如心齋宗左(1705-51)より改まったという、茶筅荘をはじめとする7段の記述から始まる千家茶道の書を直亮が書写したもの。直亮自身の奥書によれば、萩原勘解由孤雲（斑山亭）の秘書を或る人に借りて写したものといいます。萩原は彦根藩士で千家流の茶人。

24　湖東焼　赤絵金彩唐人物図煎茶碗　　５口

鳴鳳絵付

口径6.6cm　底径3.2cm　高4.1cm

江戸時代

当館蔵（井伊家伝来資料）

湖東焼は、文政12年(1829)に彦根城下の商人によって始められたものが、天保13年(1842)、直亮によって彦根藩に召し上げられて藩窯となりました。藩窯時代、多様な作品が作り出される中で、茶道具も多く作られました。現存作品から判断すると、湖東焼では、茶の湯の道具より圧倒的に煎茶道具が多く作られていたものと判断されます。本作の絵付をした鳴鳳は、直亮の代に彦根に招聘された絵付師で、次代の井伊直弼(1815-60)の代も引き続き湖東焼の絵付師として活躍しました。中国趣味の画題、画面を埋め尽くす華やかな文様の本作は、直亮の好みが反映したものと考えられるものです。

25　紫泥六角水注　　１口

口径5.8㎝　高9.5㎝

中国・清時代

当館（井伊家伝来資料）

煎茶で用いる水注。紫泥とは、黒みを帯びた赭色、または暗い紫色の無釉の陶器をいい、中国では紫砂と呼ばれ、煎茶道具で好んで用いられました。本作は、中国江蘇省の宜興窯製と考えられており、肩部上面には、中国・清時代の篆刻家・陳鴻寿(1768-1822)による「可以一楽曼生」の彫銘が確認できます（作者銘は底部)。「琉球焼茶つき（ぎ)」と書かれた箱書は直亮の筆跡と考えてよいもので、琉球産と誤認されたのは、琉球経由で輸入された可能性を示唆するのではないかという説があります。

37　焼締波兎陽刻八角陶硯　銘竹生島

箱蓋・極札とも　　１面

最大幅15.9㎝　高2.7㎝

江戸時代

当館（井伊家伝来資料）

陶製の硯。「竹生島」の銘は、墨池の左に刻まれた兎に由来し、謡曲「竹生島」の一節「月海上に浮かんでは　兎も波を奔るか　面白の島の景色や」に拠るものです。箱の蓋には「書院硯」とあり、書院を飾る道具として用いられたものと判断されます。

本作には、天保12年(1841)に古筆の鑑定家、古筆家10代了伴(1790-1853)による極札が添います。これによると、箱書の筆者は、江戸初期の武将で茶人でもあった佐久間将監実勝筆だといいます。井伊家伝来の茶道具の箱書の極め札は、本作のように了伴によるものが比較的多く、直亮が鑑定させた可能性が指摘できます。また、直亮の当主時代、道具本体もその筋の専門家に鑑定させている例も見られ、直亮の道具に対する並々ならぬ関心度が窺われます。